

ふるさと わがまち わが地域

海の恵みとともに共存して暮らおこし

世帯数 164世帯
人口 355人
(平成26年7月末)
前回(24/9)より
世帯数 +7世帯
人口 ▲9人

中浜(なかはま)地区260908



中浜区民会館
下宇川ふるさとレスキュー本部

旧中濱公民館
三宮神社前

中浜区民会館は、平成24年11月25日に下宇川ふるさとレスキュー(京都府下2番目)が発足して本部となっています。



宇川漁村センター

世帯数 194世帯
人口 887人
(昭和30年10月1日)



★地区概要

中浜地区は、室町時代の中ごろ文亀(1501)の頃まで20、30戸のわびしい漁村でした。この村は耕地も少なく、永正(1504)の頃、若狭日向村(ひるが)の漁夫がこの地に来て試漁して好結果を見て、15から16年後の大永の頃30余戸移住してから漸次戸数が増加し、今日の基礎がつくられた。当時は延縄業を主とし、その傍ら磯窺(いそのぞき)業も行われた。漁業専一を生計の中心と考え、慶長年間(1596~1614)にその隆盛を見て、竹野郡の沿岸では漁具、漁法ともに優れ近村部落随一といわれた。特に鱈・つじ・鱧・鰈等豊魚であった。しかし、大正から昭和にかけて一本釣、烏賊・鯖の漁獲も多かったが、漁法の進歩により乱獲の結果一時衰微の兆しが表われ、国費と府費により港湾の改修、漁法の改良、機械化の方向に進み昭和47年12月以降昔の活気をみせている。(丹後町史より)しかし、オイルショック(1973年)以降は、遊漁船が主となっています。

平成24年10月4日から、毎週火曜日午後3時から5時まで、**漁協荷揚げ場**で地元で獲れた新鮮な魚を安く販売をモットに「**しんのみ市**」が開催されています。



荷揚げ場



荷揚げ場

京都府漁業協同組合
下宇川営業所

中浜漁港は**京都府下唯一の第4種(府管)**の漁港です。
第4種漁港は離島その他辺地にあつて、漁場の開発または漁船の避難上特に必要な漁港です。
ちなみに中浜の地名のいわれは諸説ありますが、その一つに袖志浜と久僧浜の真ん中の浜だから中浜と言われたとか？



中浜区民会館

第3回『海フェスタ・京都』『市制10周年記念』『海の京都』
夏休み ジオパーク『大地は器』で遊ぶ
「とび丸タクシーでジオパークスポットめぐり&定置網体験&漁港めし」
が開催されました。(26年7月28日・29日)



帰港

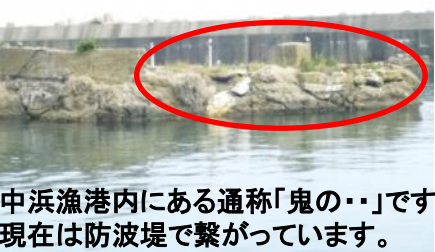
荷揚げ場から釣りをしています。



船長さんです。



素手でタコを。



サザエのつぼ焼きです。



中浜漁港内にある通称「鬼の…」です。
現在は防波堤で繋がっています。



「とび丸タクシー」受付所で



いざ、出港



第2回 『海の京都』 丹後半島7月28日
「とび丸タクシーでジオパークスポットめぐり&定置網魚体験」
「子どもたちに、この海をみせてやりたい」が海の京都の始まりです。
(25年度撮影)



タコのつかみとり体験



露店

帰港後のジャケン大会
(もちろん景品は今朝
獲れたお魚です。)



露店



露店



はしうどケイオン



参加者による地魚のセリ市体験



一万度神社 (字中浜一万度岩)



大師堂



地藏尊



役小角像
(えんのおづぬ)

不動明王像

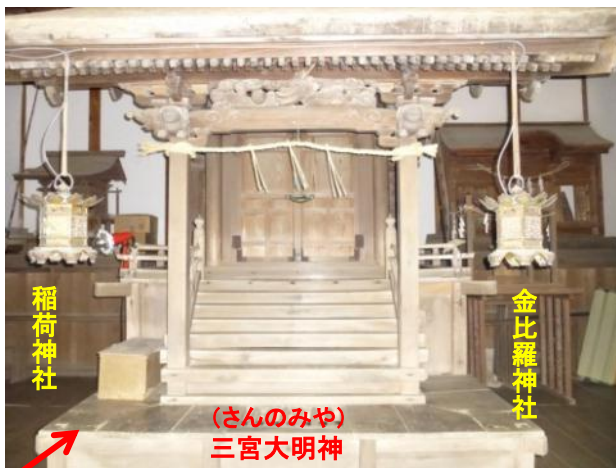


五(ご)神社 (中浜西の坂)
祭神は五元神



舟師(しゅうし)の信仰する神様。
祭日は船を粧(よそお)ひ酒肴を載せ多く
参詣す。(丹後國竹野郡誌より一部)
漁師の神様です。

26年7月26日(土)花火が打ち上げら
れて、海の安全を祈る中浜港祭が行われ
ました。10月11日(土)、12日(日)には
旗を立てて秋祭りが執り行われます。



稻荷神社

金比羅神社

(さんのみや)
三宮大明神



大野神社 (小字大野山)

祭神(丹後町史より) 宇気持神(うけもちのかみ)
大荒田別命(おおあらたわけのみこと)・賀具土神(かぐつちのかみ)・
天照皇大神(あまてらすすめおおかみ)・須佐迺男神(すさのおのかみ)



明治4年5月村社となる。
明治17年五神社を合祀。
地元では「愛宕神社・愛
宕さん」と呼んでいます。



三宮神社 (中浜坂の下)

福聚院へ

祭神 素盞鳴命(すさのおのみこと)
大穴持命(おこなもちのみこと)
少名彦命(すくなくひのみこと)



慈眼山 福聚院(ふくじゅいん)
(小字上の山・曹洞宗)
本尊 聖観音菩薩座像
貞享三丙寅年(1683)頃創立
開祖は橘宗曇和尚



梵鐘

本堂

聖灯山 浄念寺(じょうねんじ)
(小字山根・真宗西本願寺派)
本尊 阿弥陀如来
享禄二巳丑年(1529)創立
開祖は宗安法師



愛宕山元屋敷

